

在ペナン日本国総領事・町田です。

「ニッパチ」とは言っても年度末が近づく2月もご多忙のことではなかったかと拝察申し通例通り、本年2月の総領事（館）活動報告をさせていただきたいと存じます。なお、これら活動の一部については別途、総領事館HP・FB、総領事X等でも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

2月で最も重要であった行事は、12日に市内「E&Oホテル」で 「天皇誕生日祝賀レセプション」でした。チョウ・コン・ヨウ首席大臣を主賓



とし、約220人の招客と共に、マレーシア国王及び天皇陛下の弥栄を祈りました。今回は特に、豊橋技術科学大学及び信州大学の二つの国立大学学長も参加され、首席大臣との懇談などを



行っていました。このような結びつきが、日本にとっても利益となる更なる交流促進に役立つことを祈ります。今回の企業等展示では、東レ、テクスケ

ム、キャノンという常連の皆様に加え、本年50周年を迎えるフマキラー社、



豊橋技術科学大学・信州大学・豊橋市国際交流協会も花を添えました。私の挨拶では、長年にわたって成熟した関係となった日本・マレーシア関係が更なる高みに向かうため、高度な学術協力などの新たな取り組みが必要である等述べました。

ペナン外への出張等については、

2月14日、豊橋技術科学大学の面々等と共に、ペラ州ブキメラ及びクアラ・セパタンを訪問しました。前者の売り物の



オランウータンは渴水で島に行くための船が運航停止のため見られませんでした。その後のクアラ・セパタン（中国語名：「十八丁」）では、養殖場、汽水域に浮かぶ住宅群、マレーシア最初の鉄道跡、炭焼き工場を訪問することができました。戦前からあるこの炭焼き工場は

元々日本人による経営であり、現在でも生産量の6割は日本に輸出されているということであり、隠れた日本とマレーシアのつながりを知ることができまし

た。

15日から16日にかけてトレンガヌ州クアラ・トレンガヌに出張し、16



日、トレンガヌ・マレーシア大学（UMT）を訪問し、副学長等との間で、日本との学術交流の今後等について意見交換しました。UMTには日本で学位を取得した教員が16名おり、数十年に亘って日本との研究交流などを積み重ねてきました。今後とは、日本との間で漁業・海洋分野での更なる学術交流や日本語教育の促進

などを考えているということであり、今後、日本政府関係機関等に繋ぐことで多面的な協力推進をしていきたいと考えています。

26日、ケダ州クリム：ハイテク・パークに出張しました（詳細後述）。

この他、当館各担当官も、必要な用務出張を行なっております。

私共としては、北部6州の関係者・関係機関を幅広く訪問して人脈を形成し、当地事情をより深く詳細に理解していきたいと考えております。

政治・行政・経済面では、

2月3日、デジタル・ペナンとHWDシステムズ社との間で行われたMOU



の調印式（於：州政府庁舎）に同席しました。これは、デジタル・ペナンも重視するペナンの零細・中小企業（MSDGs）がサーバー攻撃に遭うことを防ぐ・逢った場合の保険を準備するというスキームです。

このスキームに我が国の東京海上が関わっていることから私もよばれたものです。同日、元州議会議員の方と総領事館内で面談し、過去のジョージタウン世界遺産登録を含むペナン政治の席史についてお話を伺い、また、マレーシア政治の今後等について意見交換しました。4日、「Penang Malay Association」のタンスリ・ユスフ・ラティフ会長（Tan Sri Yusuf Latif）を表敬しました。同協会は、ペナン州のマレー人の教育と福祉のために、1927年に設立されました。タンスリ・ユスフ・ラティフ会長は現在95歳と伺いましたが、長く、マレー人のためだけではなく、ペナンの各民族間の友好関係の維持にも尽力されたとのこと。1969年の人種暴動を挟んで、現在、ペナンを含むマレーシアでは他民族の調和がありますが、そこには、アジア太平洋のバリュー・チェーンの中

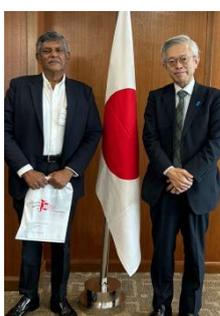


にいたという恵まれた地政学的な環境にいたということによって経済成長を享受したことに加え、調和を保つために努力した人々がいたからということを感じました。5日、ケダ州クリム・ハイテク・パーク（KHTP）で開催されたメニコン社の工場開所式に出席しました。既にシンガポールに工場を有している同社は、より大規模な、かつ、拡張可能な工場用地をこの地域に求めていたところ、KHTPへの進出を決めたということです。新工場では、毎日使い捨て型のコンタクト・レンズを大量に生産しています。高度に自動化される工場で働く人員は数百名程度ですが、それでも、ケダ州における技術移転への貢献が期待されます。



14日、ペナン港湾委員会が主催した中国正月イベントに参加しました。日本企業の活動のためにはペナン港との関係は大変重要です。このような場における人脈形成にも精を出したいと思います。17日、ペナン首席大臣の主催する中国正月イベントに出席しました。

23日、マレーシア科学大学（USM）の犯罪学専門家（元教授）であるP. スンドラムルティ氏と面談し、当地犯罪事情、警察事情等について意見交換しました。詐欺事件を含め、犯罪は多様化・複雑化しているところ、今後とも、犯罪専門家等とつながることによって、当地の日本人の皆様への有益な情報提供に努めたいと思います。26日、ケダ州クリム・ハイテク・パーク（KHTP）を訪問し、クリム・テクノロジー・パーク社（Kulim Technology Park Corporation SDN. BHD）のザイド副CEO（Mohd Zaid Abdul Jalil, Deputy Group CEO）と面談しました。ザイド氏からは、KHTPについてご説明いただき、私からは、KHTPで操業する日本企業の直面する問題点と要望を先方に共有し、取り敢えずの反応をいただきました。今後とも、日本企業の要望に応じ、このような取り組みをしていきたいと思



28日、リム・フイ・イン女性・家族・地域開発副大臣（ペナン・タンジョン選出下院議員）主催の中国正月行事に出席しました。ペナンの多文化社会の中でも活発な華人文化の精髓を見



せていただきました。ペナンには、文化・観光面での豊かな「エコシステム」があることを再認識しました。今後とも、ペナン華人社会との関係強化を図っていきます。

今後とも、当地行政機関等との関係を深め、また、様々な人や組織を繋げることによって、当地の日本人・日本企業の皆様等の活動へのヒントをもたらすことができたら良いと思っています。

日本人社会との関係（出張部分除く）では、

2月8日、昨年につき、「第46回『さくらカップ』テニス大会」の昼食懇



談会に出席いたしました（於：ペナン・スポーツ・クラブ）。このテニス大会は、新型コロナのために数年中断したこともあり、実質的に50年間継続しているものです。ペナン日本人会とペナン・スポーツ・クラブの合同行事が50年も続いているのは素晴らしいことで、私からは、この素晴らしい成熟した関係を今後に繋げていきたい旨挨拶で申し上げました。

26日、ペナン日本人会理事会及び年次総会に出席しました。年次総会にお

いては、現会長及び次期会長からの今後の日本人会の取り組みについて詳細なご説明がありました。私は冒頭挨拶において、日本人会墓地及び日本人学校の運営管理等日本人社会の重要案件について、企業経営で多忙な中、日本人会役員が懸命に貢献していることに敬意を表明し、また、婦人部「さくら会」の活動の活性化等について総領事館としても協力していきたい旨、申し述べました。



領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。当地日本人コミュニティの皆様や来訪者には、警備担当官から安全講習を随時実施しています。今後とも、皆様への治安情報の積極的な提供に努めていきたいと存じます。また、日本人コミュニティと当地コミュニティとの橋渡し、その中での日本企業支援なども積極的に、かつ、日本企業のご要望に添う形で実施して参りたいと存じます。

文化交流・報道・学術交流関係では、

2月5日、USMにおいて実施された富山大学とのMOU締結式典に出席し



ました（ジャグディープ・シン第2副首席大臣も一緒でした）。私は出席しませんでした。式典の後には、薬学関係のセミナーが実施されたところです。富山大学は、我が国国立大学としては初めてUSMに常駐のオフィスを設置し、今後、日本との間の活発な学生交流を進めていくということです。6日、総領事館事務所において、JAG

AM北部支部関係者の訪問を受けました。日本文化祭、日本留学フェアなど、JAGAMの2026年活動計画などについて説明を受けました。同日、共栄大学（埼玉県）関係者等と同大学の今後のペナンにおける活動について公邸にて意見交換



をいたしました。

同大学は小学校等の教員養成を主とする大学であり、9月には学生さんがペナンに渡航し、日本人・マレーシア人の児童・生徒に対して日本語（国語）を教えるという貴重な経験を積むこととなります。同日、信州大学の当地研修など

に向けての準備を行なうために一時当地に滞在している同大学若手職員お二人の訪問を受けて当地事情についてのご説明などを実施しました（7日には、共栄大学・信州大学の皆さんと何人かの在留邦人の皆様と親睦会をいたしました）。今後とも、両大学の活動が日本のためになる国際化に役立てば良いと思います。

10日、トウク・アブドル・ラーマン大学（UTAR）と関西学院大学との間のオンライン交流会（"Seasonal Fun Exchange"）の冒頭に参加し、挨拶を述べました。今回は、日本・マレーシアの季節について紹介し合うというイベントでしたが、このようなイベントを通じて、両大学間の友好関係が進化することを祈念します。同日、INTIカレッジキャンパス内での中国正月イベント（ネットワーキング・ディナー）に参加しました。マレー半島のプラナカン文化や華人コミュニティで行われる「長い一列のテーブルに料理を並べて大勢で食べる宴席」を指す伝統的な食文化・儀礼である Tok Panjang（語源は福建語の tok [テーブル] とマレー語の panjang [長い] に由来）での夕食会でし



た。マレーシア文化の新たな側面を見ることができました。11日、ペナン島バヤン・ルパス地域の「Snake Temple」（1805年建立。正式名称：「青雲廟（Temple of the Azure Clouds）」を（遅まきながら）訪問しました。1000年前の福建省出身の高僧 Chor Soo Kong（祖師公）を祀るためのもので、現在では、福建出身者の代表的な文化遺産の一つになっています。道教、仏教、観光



日駐檳总领事参观蛇庙

## 赞檳历史文化 将向国人推广

guangming.com.my



が入り混じったブリコラージュを楽しみ学びました。12日、INTIカレッジにおける豊橋技術科学大学（TUT）とINTI／信州大学とINTIそれぞれの協力MOU署名式に出席しました。これは、日本・マレーシア両国間の学術・学生・青年交流を益々促進するものです。また、同日、豊橋技術科学大学、豊橋市国際交流協会及びJAGAM北部支部3者によるMOU署名式に出席しました。JAGAM北部支部は、

昨年の豊橋中高生マレーシア



訪問の際にも広範な協力をしており、今回のMOUは三者の連携関係を固めたものです。16



日は、前記の通り、トレンガヌ・マレーシア大学（UMT）を訪問しました。

21日、ペナン廟会（Miao Hui）開会式に出席しました。廟会は、1999年に開始したペナンの中国正月行事であり、ステージでは各種の演奏・演技がなされ、通りには、ペナンに在住する華人の出身地（クラン）ごとの展示や物販がされています。ペナンは、2026年マ



レーシア観光年で盛り上がり、廟会はその象徴であると思います。多文化を標榜するペナンらしく、今回は日本式の踊りも披露されました（MJS関係者によるものです）。24日、ジョージタウン・ヘリテージ・トラスト（GHT）のクレメント・リャン会長、「プラナカン博物館」のリリアン・トン館



長（GHT副会長）、立命館大学・小野真由美准教授との間で日・マレーシア学術交流等について意見交換を行ないました。また、25日は、小野准教授が引率してきた立命館大学の学生さんを交えて意見交換ができました。同日、USMで開催さ

れたイフタール夕食会（州長出席）に出席しました。27日、マレーシア北部大学（UUM）での交流プログラムで当地を訪問している京都産業大学の学生さん達に対して、日本・北部マレーシア関係や当地犯罪事情等についての説明を実施しました。「安全」なマレーシアは、日本の大学（生）にとって人気の留学・研修先ですが、交通事故も含め、ペナンの治安は日本より悪いことは明らかであるので、学生の皆様はこれを理解して、当地にて有意義な活動をしていただきたいと切に願います。



総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

今後、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、私個人のものです。